熊谷市
記者クラブ取材情報

令和8年10月30日発表
担当課：熊谷市教育委員会
社会教育課

タイトル

令和8年度　熊谷市文化功労者・教育関係職員表彰式

1．日時　令和８年１１月３日（火・祝日）　１０時００分　開式

2．場所　熊谷市立大里生涯学習センター　あすねっと

3．事業概要

＜事業内容＞
【式典】
・文化功労者３名　猪野　和幸　氏（体育　７３歳）
　加藤　道子　氏（学校教育　７０歳）
　嶋田　勝利　氏（文化　８２歳）

・教育関係職員表彰者２４名（学校教職員１７名、学校医７名）

＜目的＞
・文化功労者：教育・学術・文化・体育の振興について特に功績が顕著である方を表彰する。
・教育関係職員表彰：熊谷市内在勤１５年以上で勤務成績が良好である者を表彰する。

＜影響・効果＞
文化芸術及び教育活動を行っている方々の励みになり、各分野の振興に資することになる。

4．特徴やPRポイント

5．その他

＜主催者＞
熊谷市教育委員会
代表者　渋谷　昌美
＜連絡先＞
０４８－５２４－１１１１　内線（３９４）

※ 資料の有無（ 有 ・ 無 ）　※市HPの掲載（ 有 ・ 無 ）

担当者　熊谷市教育委員会社会教育課　栗原
連絡先　ＴＥＬ　０４８－５２４－１１１１内線（３９４）shakaikyoiku@city.kumagaya.lg.jp

熊谷市文化功労者

猪野和幸（いのかずゆき）氏　（７３歳）

熊谷市村岡

氏は、熊谷市教育委員会保健体育課長や熊谷市スポーツ協会の要職を歴任し、長年にわたり学校教育の振興と市民の健康増進、スポーツの普及発展に尽力されました。

保健体育課長等の時代には、児童・生徒の体力向上に力を注ぐとともに、全国初となる小学４年生の希望者を対象とした受動喫煙検診の実施や、新型インフルエンザ流行時の小・中学校対応マニュアルの作成など、児童生徒の健康と安全の確保に多大な貢献をされました。また、文部科学省の在外教育施設教師としてドイツを訪れ、地域スポーツの構造を学ぶなど、先進的な知見を教育行政に活かされました。

さらに、熊谷市小学校体育連盟会長等として、陸上フェスティバルの充実やタグラグビーの市内小学校への導入・普及を図り、子どもたちの競技力向上と健全育成に寄与されました。熊谷さくらマラソン大会においては、チャンピオンチップの導入やボランティア組織の充実を図り、第２０回記念大会では参加者１万人を超える県内最大のマラソン大会へと育て上げられました。

熊谷市スポーツ協会においては、総合行事の企画立案や財務基盤の充実に努め、現在は監事として組織の適切な運営管理に寄与されています。吉岡公民館運営協議会理事長としても市民の運動実践への関心を高め、地域住民の健康増進に貢献されました。

このように、学校教育の充実から生涯スポーツの振興に至るまで広く尽力され、市民の健全な心身の発達と健康で明るい生活の実現に寄与された功績は誠に顕著であります。

熊谷市文化功労者

加藤道子（かとうみちこ）氏　（７０歳）
熊谷市仲町

氏は、弁護士としての専門的知見と高い見識を活かし、熊谷市の教育委員会や附属機関の委員を歴任されるなど、市の教育行政及び一般行政の発展に多大な貢献をされました。

平成２０年度からの５年間、熊谷市教育委員会の点検・評価に関する有識者として、主にコンプライアンスの観点から意見を述べられ、いじめ問題への助言や、早くから教職員のメンタルヘルス対策や過重負担の軽減の重要性を指摘するなど、事務事業の改善に寄与されました。

平成２５年１２月から３期１２年にわたり熊谷市教育委員会委員を務められ、教育振興基本計画の策定や学校統廃合、教科書選定等の重要事項において中立的な意思決定に尽力されました。新制度移行後も教育長職務代理者を３度にわたり務め､円滑な運営を支えられました。

また､「保護者対応のための事例研究会議」では、学校だけでは対応が困難な事例に対し、法律的な助言により支援され、学校運営の課題改善にも多大な貢献を果たされました。

さらに、社会情勢が大きく変化する中、熊谷市総合振興計画審議会委員として、まちづくりの将来像を示す、本市の最上位計画の策定に参画されたほか、熊谷市男女共同参画審議会会長等を歴任し、本市の男女共同参画社会の実現に向けて力を尽くされました。

このように、長年にわたり教育行政と市政全般の振興に尽力され、市民の福祉向上と持続可能なまちづくりに寄与された功績は誠に顕著であります。

熊谷市文化功労者

嶋田勝利氏　（８２歳）

熊谷市肥塚

氏は、埼玉交響楽団の発起人の一人として長年にわたり組織運営の中核を担い、地域における音楽文化の礎を築かれました。

熊谷市音楽連絡協議会会長及び熊谷市文化連合会長として団体の垣根を越えた連携を推進し、市民音楽祭や文化祭事業などの開催を通じて、市民参加型の文化活動の充実に尽力されました。

市民参加の手作り「第九」や、全国一の規模と称される市民バレエ公演等では企画立案から舞台発表まで中心的役割を果たされ、多くの市民に芸術文化に親しむ機会を提供されました。

本市の音楽家と新人演奏家による「熊谷ガラコンサート」を継続開催し、地元演奏家の登竜門として後進の育成と活性化に寄与されました。また、「式典のための交響的熊谷市歌」の普及を企画・主導し、市内の小・中学校・高等学校及び市民音楽団体への配布を進めるなど、地域の文化資産の継承と普及に努められました。

さらに、熊谷市文化連合が埼玉県文化団体連合会文化選奨を受賞した際には、「埼玉県文化振興の集い」に招かれ、代表として「文化の出前」をはじめとする様々な取組を発信されました。

公益財団法人熊谷市文化振興財団理事等としても行政と文化団体を結ぶ立場から市の文化施策の発展に参画され、長年にわたる献身的な活動により本市の文化振興に大きな足跡を残されました。

このように、音楽文化の振興、発展に尽力され、市民が豊かな芸術文化を享受できる心豊かな地域社会の実現に寄与された功績は誠に顕著であります。